

配当金のお支払いについて

支払期間経過後の配当金のお受け取り方法に関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。まだお受け取りいただいていない配当金につきましては、支払開始日から3年以内であればお支払いいたします。

株式に関する手続きについて

株式に関するお手続きは、①証券会社の口座に記録されている場合と、②特別口座に記録されている場合で異なりますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。

① 証券会社の口座に記録された株式		
お手続き、ご照会の内容	お問い合わせ先	
●単元未満株式の買取・買増請求 ●届出住所・姓名などのご変更 ●配当金の受領方法・振込先のご変更	口座を開設されている証券会社	
●郵送物の発送と返戻に関するご照会 ●支払期間経過後の配当金に関するご照会 ●株式事務に関する一般的なお問い合わせ	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)

単元未満株式の買取・買増請求について

当社の株式は1単元が100株となっており、単元未満株式（1～99株）については、市場での売買はできませんが、当社に対して買取請求（売却）または100株（1単元）となるよう買増請求（購入）をすることができます。お手続きの方法及び用紙のご請求は下記のお問い合わせ先にお申し出ください。

② 特別口座に記録された株式		
お手続き、ご照会の内容	お問い合わせ先	
●単元未満株式の買取・買増請求 ●特別口座から証券口座への振替請求 ●届出住所・姓名などのご変更 ●配当金の受領方法・振込先のご変更	□特別口座の 管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
●郵送物の発送と返戻に関するご照会 ●支払期間経過後の配当金に関するご照会 ●株式事務に関する一般的なお問い合わせ	株主名簿 管理人	

 当社Global Websiteのご案内

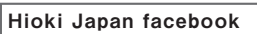
Global Websiteでは企業ビジョンや事業戦略、製品ソリューションなどを全世界のステークホルダーに向けて発信しています。ぜひご覧ください。





 Facebook (SNS) [Hioki Japan]のご案内

Facebookページでは、ホームページに載せきれない情報やトピックス、楽しい雑学などをお届けしています。





株主の皆様へ

第72期 年次報告書

2023年1月1日>>2023年12月31日

HIOKI

目次

株主の皆様へ	P1
中期経営計画と決算ハイライト	P2
ビジョン2030の進捗状況について	P3～4
事業領域	P5
トピックス	P6
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応	P7
連結財務諸表	P8
会社概要／役員	P9
株式の状況	P10
配当金等	裏表紙

日置電機株式会社

証券コード:6866

株主の皆様へ

To Our Shareholders

代表取締役社長

岡澤 尊宏
Takahiro Okazawa

株主の皆様におかれましては、平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2021年から長期経営方針として「ビジョン2030」を掲げ、HIOKIグループ一体でビジョンの実現に向けて取り組みを進めてまいりました。過去3年間の事業環境を振り返りますと、世界は持続可能な社会の実現に向け、気候変動対策を推進する等、一貫して脱炭素に向けた動きを加速させてまいりました。

ビジョン2030では、業界のフロントランナーとして「測る」を進化させ続け、世界のお客様と共に持続可能な社会をつくるソリューションクリエイターになることを掲げています。このビジョンの実現に向け、当社は「新しい顧客価値の創出」等の5つのイノベーションを重点課題として捉え、取り組んでまいりました。各種施策が奏功し、2023年まで3期連続で過去最高の業績を達成することができました。なお、5つのイノベーションの施策の進捗についてはP.3で紹介しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。

国内外における脱炭素に向けた積極的な投資は、当社の業績にとって大きな追い風となりました。それと同時に、世界的な物価高、急激に変動する為替相場、半導体等の部品需給逼迫、中国・上海市におけるロックダウンによる物流の停滞等のリスクが顕在化し、この3年間は不確実性が高まる外部環境への対応を進めてまいりました。2022年以降は受注残高の高止まりが大きな課題となっておりましたが、部品欠品による一部製品の出荷停止状況の解消等により2023年中には過度な受注残高を解消することができました。一方で、顧客への供給責任を果たすことを最優先に、主と

して2022年以前に一時的にさまざまなルートで市場価格を上回る部品を調達したことに加え、多くの部品価格が高騰したことから、原材料を中心に棚卸資産の残高が高い水準で推移しております。この現状を踏まえ、2023年は棚卸資産の残高を適正な水準とするための取り組みを進めており、2024年以降も同様の対応を進めてまいります。

2023年はコーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化に取り組みしました。退任する社外取締役1名と入れ替わる形で新たに3名の社外取締役が加わりました。多様な背景を持った役員が取締役会で自由闊達に議論を行うことで当社の企業価値向上に繋がるものと考えております。また、東証からの要請に基づき、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」にも取り組んでまいりました。引き続き資本収益性の向上に向け、積極的かつ適切な情報開示を行ってまいります。

サステナビリティに向けた取り組みとしては、2023年に着工した発電容量2MWのソーラーカーポート第1期工事が完了いたしました。2025年の完成時には本社で使用する電気の約半分を自社で賄える見通しとなり、当社が事業活動を通じて排出する温室効果ガスを大幅に削減できます。

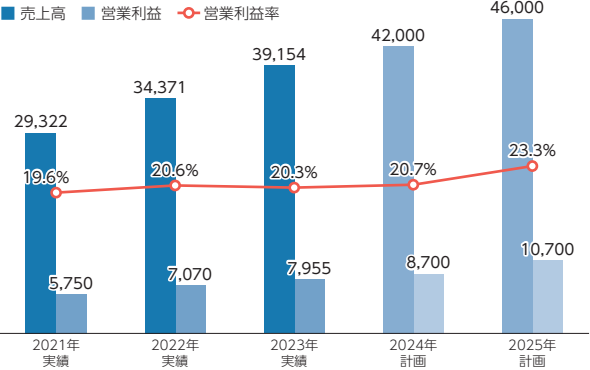
昨年、NHKの番組「魔改造の夜」での競技に当社社員が挑戦しましたが、挑戦こそが成長の原動力であると実感いたしました。2024年もビジョン2030に基づきHIOKIグループ一丸となって積極的な挑戦を続け、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

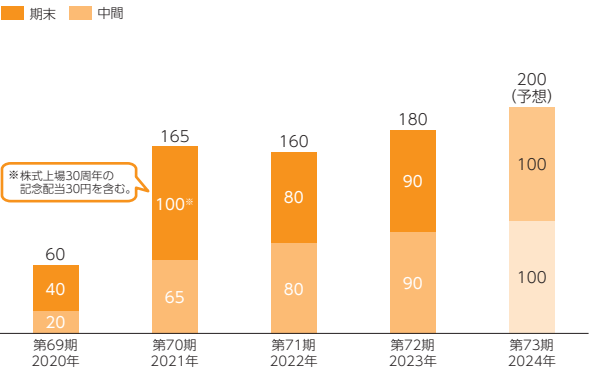
中期経営計画と決算ハイライト

Mid-Term Management Plan & Financial Highlights

中期経営計画（2023～2025年）（単位：百万円）



1株当たりの配当金の推移（単位：円）



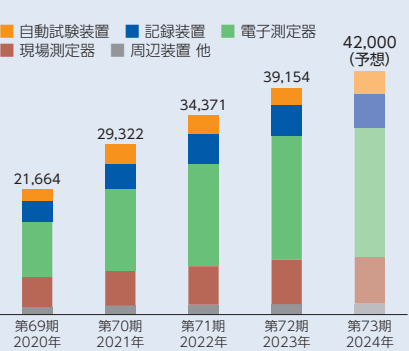
決算ハイライト

- Point 脱炭素化に向けた世界各国の取り組みを受け、エネルギー市場の計測器需要は幅広い地域で好調であった一方、バッテリーとデバイス市場の計測器需要には一部の地域で弱さが見られた。
- 部品価格の高騰等により売上原価が増加した一方で、円安の影響で売上高が増加し増収増益要因になった。3期連続で連結売上高は過去最高となった。
- 期末配当を1株につき90円とし、年間配当金は、中間配当金90円と合わせ180円になった。

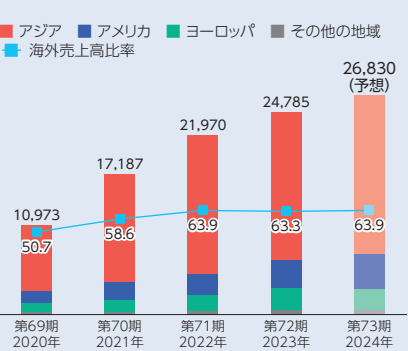
● 売上高

39,154 百万円 (前期比 13.9%増)

製品別売上高



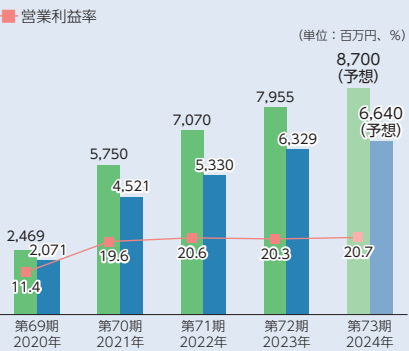
海外売上高



● 営業利益／親会社株主に帰属する当期純利益

7,955 百万円 (前期比 12.5%増)

6,329 百万円 (前期比 18.7%増)



※本年次報告書中に記載の金額及び株式数は、表示単位未満は切捨て、比率は四捨五入して表示しております。

ビジョン2030の進捗状況について

Vision 2030 Progress Report

当社は2020年12月に長期経営方針であるビジョン2030を発表しました。
2021年から、新たな経営体制のもと、ビジョン2030の実現に向け取り組みを進めてまいりました。
この間、国内外で脱炭素に向けた動きが加速し、電気エネルギーとさまざまなエネルギーとの変換が行われている外部環境を背景に、ビジョン実現に向けた取り組みが奏功し、過去3年間、当社の業績は好調に推移いたしました。

当社はビジョン2030に基づく経営戦略として5つのイノベーションを柱と定め、全社で継続して取り組みを進めてまいりました。「イノベーション」とは、あらゆる分野で新しい結合（新結合）を生み出すことを意味しています。それぞれの取り組みについてこれまでの進捗をご報告いたします。

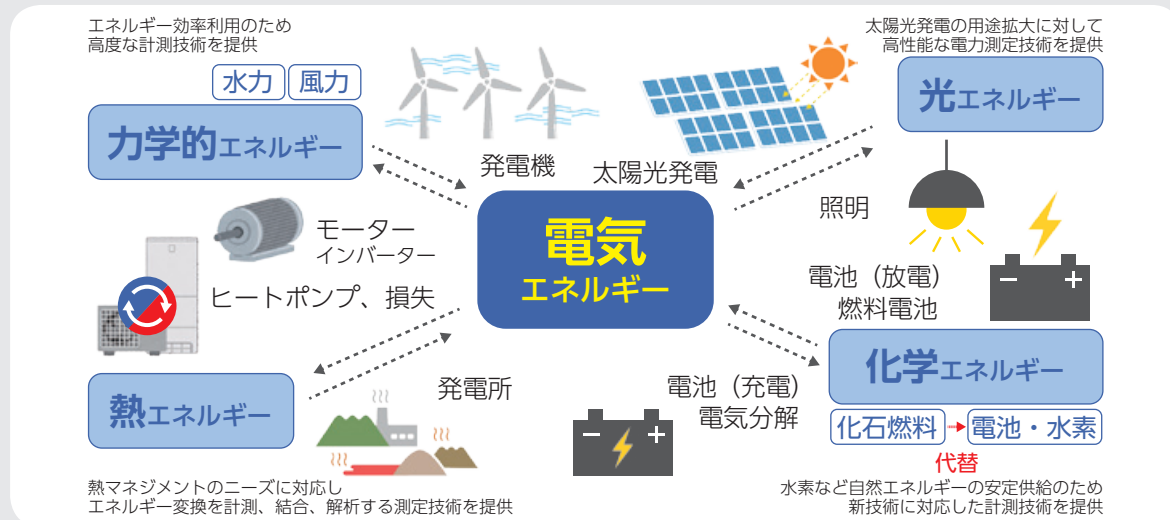
■電気エネルギー中心の世界に、電気計測で社会課題の解決に貢献

現代社会は、多くのエネルギーを使うことで成り立っており、さまざまな種類のエネルギーを場面に応じて変換し活用してきました。近年、その変換の場面が増えていることから、それに合わせて電気計測器の需要が今後も増加していくことが予想されます。

これまでそのエネルギー源は化石燃料を中心とする「化学エネルギー」でした。化石燃料を燃焼させ「熱エネルギー」にしてから「力学的エネルギー」へと変換させるエンジンがその代表ですが、昨今の脱炭素の流れのなかで、世界は化石燃料から代替エネルギーへの転換を推し進めています。その中心が「電気エネルギー」です。

太陽光という「光エネルギー」を太陽光発電で「電気エネルギー」に変換。あるいは、風力や水力などの「力学的エネルギー」を発電機で「電気エネルギー」に変換したり、電池や水素という形で「化学エネルギー」を保存して使用したりするなど、それぞれの家庭で電気エネルギーとさまざまなエネルギーとの変換が行われています。これらのすべてにHIOKIの計測器は関わっており、これまで社会課題の解決に貢献してまいりました。

今後もエネルギーに関わる新しいソリューションを開発していきます。



ビジョン2030

ミッション ー何で社会に貢献するのかー

電気計測を通してお客様の安全で有効なエネルギー活用を促進し、社会の安心と発展に貢献する。

ビジョン ー10年後のありたい姿ー

「測る」の先へ。

HIOKIは、業界のフロントランナーとして「測る」を進化させ続け、世界のお客様と共に持続可能な社会をつくるソリューションクリエイターになる。

「測る」の先へ。➡ 新たな測定・検査基準の創出

5つのイノベーション



新しい社会を顧客と協創する関係構築

- 研究棟内に協創ラボラトリーを開設
同ラボに重要マーケットの最新鋭設備を導入し、顧客と協創できる関係を構築
- 研究開発、アプリケーションエンジニア機能を持つ組織をインド販売子会社に設置
- 市場の要求を汲むべくコンソーシアムへ積極的に参加



ASEANのバッテリー会議を企画支援



新しい生産体制の構築

- 2021年に開設した坂城工場が現場測定器生産拠点として本格稼働
- 本社工場の増床工事が完了、動線改善を実施
今後の生産性の改善を見込む
- 工場能力増強のため、上田市川西地区の土地建物を取得。2024年7月に稼働開始予定



上田市川西地区の建物



新しい組織の実現

- 社員が社業を通じ「やりたい」「実現したい」「挑戦したい」「貢献したい」といった個人のパーパスを実現することをサポートする人事制度を立案
- DE&I推進担当を任命し、グループ内のDE&Iを推進



新しい顧客価値の創出

- インド販売子会社が、プネに続きベンガルール支店を開設
- インドネシア孫会社を子会社化し、さらなる連携強化推進
- 当社国内営業部と中国子会社の組織を再編。エリア志向を脱し、市場基軸での販売を強化



新しいサプライチェーンの構築

- サプライチェーンにおける人権尊重に向けた取り組みを強化
- サプライチェーン、およびパートナー企業におけるCO₂削減に向けた取り組みを推進
- 円滑な生産に向け、お取引先様と緊密なコミュニケーションを継続

各イノベーションの取り組みの詳細は、
2023年7月に発行した統合報告書で
紹介しております。ぜひご覧ください。



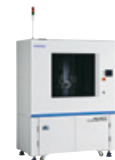
事業領域

Business Outline

4つの製品群で研究開発から保守サービスまで対応しています

自動試験装置

電子回路基板や部品内蔵基板の検査に
スマートフォンや自動車などに使われている
電子回路基板の良否を検査



フライング
プローブテスタ
FA1817



フライング
プローブテスタ
FA1816

売上高比率
7.4%

売上高28億円

記録装置

電気機器の開発や設備の異常監視に
あらゆる機器やシステムの制御が適正に
動作しているかを電気信号の波形から解析



メモリ
ハイコーダ
MR6000



メモリ
ハイロガー
LR8450

売上高比率
13.9%

売上高54億円

電子測定器

電子部品・バッテリーの検査や
省エネ、電源の品質評価に

モーター・インバーターの効率評価や
バッテリーの潜在不良を検出



部分放電検出器
ST4200



パワー
アナライザ
PW8001

売上高比率
54.6%

売上高213億円

現場測定器

電気工事・設備の保守点検に

受配電設備などの現場で、設備の保守管理の
ための電圧・電流や絶縁抵抗の測定



AC/DCクランプメータ
CM4375-50



絶縁抵抗計
IR4059

売上高比率
19.6%

売上高76億円

私たちが安全で快適な生活が送れるよう、あらゆる分野で活躍しています

電子部品分野

- 自動車の電動化、モバイル端末の高機能化に伴い、搭載数が増える電子部品の高速かつ高精度の評価検査

自動車分野

- ハイブリッドカーや電気自動車のモーター、インバーター、バッテリーなどの開発・性能評価

インフラ分野

- 電気、ガス、交通などのインフラの保守点検

環境・新エネルギー分野

- 電気機器や設備の電力使用状況を把握し、省エネ推進
- 太陽光や風力発電などの新エネルギーの品質・効率評価、設備の保守点検

トピックス

Topics

01 TOPICS

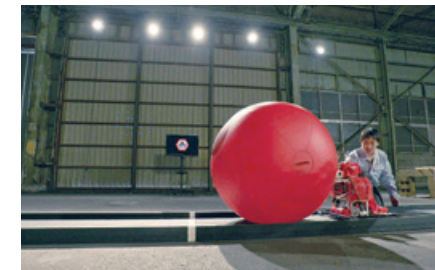
NHK「魔改造の夜」への挑戦

NHK総合テレビで放送されている「魔改造の夜」での競技に当社が“H置電機”として出場しました。「魔改造の夜」とは、超一流のエンジニアが家電・おもちゃを怪物マシンに大改造する技術開発エンタメ番組です。当社は2つの競技に挑戦しました。一つは「パンダちゃん大玉転がし」で、小さなパンダのおもちゃを改造、重さ4キロ・直径1メートルの大玉を25メートル転がし、速さを競うものです。もう一つは「洗濯物干し25mロープ走」で、洗濯物を吊り下げた状態で25mのロープをいかに早く走りきるか、ゴールまでのタイムを競うものです。

社内公募制度により自ら手を挙げて参加したメンバーが、これらの競技に挑戦しました。



特設ウェブサイト



パンダちゃん大玉転がしに挑戦

02 TOPICS

自動運転EVバスの実証実験を実施

株式会社マクニカとともに昨年8月～9月に上田市内の公道で自動運転EVバスの実証実験を実施しました。カーボンニュートラルの実現に加え、当社社員や地域の皆様が次世代モビリティに直接触れる機会を作ること等を実施の目的としています。バスには近隣住民、関係者等の多くの方にご乗車いただきました。

当社は実験で得られた知見を市内の交通事業者とも共有し、CO₂削減に向け今後も積極的に貢献してまいります。



上田市内の公道を走行する自動運転EVバス

03 TOPICS

HIOKI祭りを開催

当社は昨年9月に第20回HIOKI祭りを本社工場で開催しました。新型コロナウイルス感染症の落ち着きを受け、5年ぶりにすべてのイベントを制限なく行いました。従来のイベントの他に「自動運転EVバスの乗車体験」、「魔改造の夜」で使った競技マシンの展示やデモンストレーションも実施しました。当日は県内外から約4,000人（当社推計）の方々が来場し、HIOKI祭りを楽しんでいただきました。



第20回HIOKI祭り

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

Implementation of Capital Cost-and Share Value-Aware Management

当社は2023年8月、東証の要請を踏まえ、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関して取締役会で審議した結果を開示いたしました。

東証の要請の背景には、プライム上場企業に対して持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するため、単に損益計算書上の売上や利益水準を意識するだけでなく、バランスシートをベースとする資本コストや資本収益性を意識した経営を実践させることがあります。

■現状分析について

当社は、金融機関から借入を行っていないため、資本コストとして株主資本コストをもとに把握しています。現在、自社の株主資本コストを7%前後（6～8%）と推計しています。

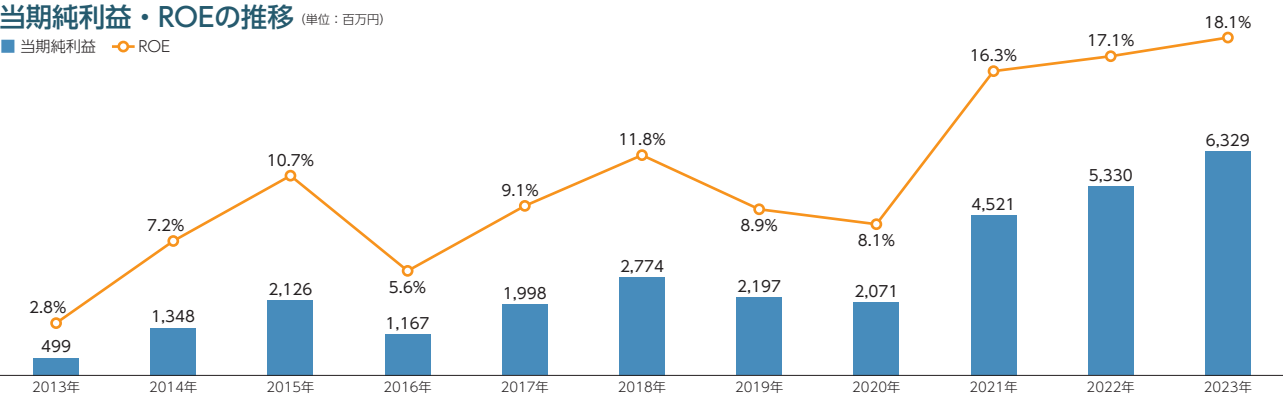
当社は資本収益性の改善を重要な経営課題の一つと認識しており、目標とする経営指標として「自己資本当期純利益率（ROE）10%以上」としてありますが、ROEは2021年以降、10%を大きく上回る水準となっています。

また、当社は資本市場からの評価として株価・時価総額、PBR（株価純資産倍率）、PER（株価収益率）の指標が重要と認識しております。とりわけ株価は当社の業績が伸長した2021年以降大きく伸長しました。これに伴いPBRも大きく伸び、現在約2倍となっております。

こうした状況から資本収益性（ROE）と株主資本コストとを比較し、2021年以降は大きく資本収益性が上回っており、株主・投資家が求める期待リターンを上回る資本収益性を実現できていると認識しています。

■計画策定・開示について

当社は「ビジョン2030」に基づき、中期経営計画を策定いたしました。資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、中期経営計画の達成が重要と考えており、達成に向けた取り組みを着実に進めてまいります。また、資本コストの低減には、積極的な情報開示を通じて株主・投資家の皆様からの信頼を高めることが重要と考えています。当社は引き続き株主・投資家の皆様の投資判断に資する情報開示を行ってまいります。



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表（要約）		(単位：百万円)
	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産	26,880	29,603
固定資産	13,725	15,647
有形固定資産	10,935	12,754
無形固定資産	423	598
投資その他の資産	2,366	2,294
資産合計	40,605	45,250
負債の部		
流動負債	6,677	7,058
固定負債	1,149	1,069
負債合計	7,826	8,128
純資産の部		
株主資本	32,231	36,277
その他の包括利益累計額	548	845
純資産合計	32,779	37,122
負債純資産合計	40,605	45,250

連結損益計算書（要約）		(単位：百万円)
	前連結会計年度 (2022年1月1日から 2022年12月31日まで)	当連結会計年度 (2023年1月1日から 2023年12月31日まで)
売上高	34,371	39,154
売上原価	18,501	20,888
売上総利益	15,869	18,265
販売費及び一般管理費	8,799	10,309
営業利益	7,070	7,955
経常利益	7,287	8,236
税金等調整前当期純利益	7,283	8,233
親会社株主に帰属する当期純利益	5,330	6,329

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）		(単位：百万円)
	前連結会計年度 (2022年1月1日から 2022年12月31日まで)	当連結会計年度 (2023年1月1日から 2023年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,241	8,438
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,475	△3,353
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,455	△2,320
現金及び現金同等物に係る換算差額	287	145
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△2,400	2,908
現金及び現金同等物の期首残高	14,237	11,836
現金及び現金同等物の期末残高	11,836	14,745

Ⅰ 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における総資産は、現金及び預金、建設仮勘定が増加したため、前連結会計年度末と比較して46億44百万円増加し、452億50百万円になりました。

負債は、未払費用が減少いたしましたが、賞与引当金が増加したため、前連結会計年度末と比較して3億1百万円増加し、81億28百万円になりました。

純資産は、利益剰余金が増加したため、前連結会計年度末と比較して43億43百万円増加し、371億22百万円になりました。

Ⅱ キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して29億8百万円増加し、147億45百万円になりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、84億38百万円の収入になりました。主な増加要因は、税金等調整前当期純利益82億33百万円及び賞与引当金の増加額28億88百万円です。主な減少要因は、未払費用の減少額25億53百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により、33億53百万円の支出になりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額等により、23億20百万円の支出になりました。

会社概要 / 役員

(2024年2月28日現在)

Corporate Profile/Executives

会社概要

商号	日置電機株式会社
英文商号	HIOKI E.E. CORPORATION
創業	1935年(昭和10年)6月
設立	1952年(昭和27年)1月
商標	HIOKI
資本金	32億9,946万円
従業員数	1,048名(2023年12月31日現在、HIOKIグループ全体)
事業内容	電気計測器の開発、生産、販売・サービス
本社・工場	長野県上田市小泉81
グループ会社	日置フォレストプラザ(株) HIOKI USA CORPORATION 日置(上海)測量技術有限公司 日置(上海)科技発展有限公司 日置(上海)測量儀器有限公司 HIOKI SINGAPORE PTE. LTD. HIOKI KOREA CO., LTD. HIOKI INDIA PRIVATE LIMITED HIOKI EUROPE GmbH 台湾日置電機股份有限公司 PT. HIOKI ELECTRIC INDONESIA

役員

取締役	
代表取締役社長	岡澤 尊 宏
取締役	巢山 芳 計
取締役	久保田 訓 久
取締役	鷹野 保 直
社外取締役	大辻 純 夫
社外取締役	田村 義 晴
社外取締役	丸田 由香里
社外取締役	馬 渡 修

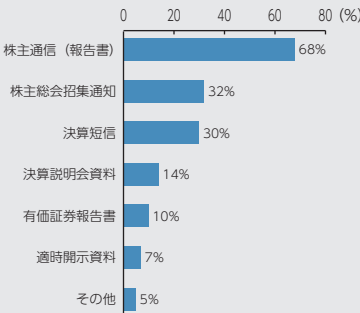
監査役

常勤監査役	大野 俊 子
常勤監査役	村田 英 典
社外監査役	小川 直 樹
社外監査役	弓 場 法

株主様からの声

株主の皆様とのよりよいコミュニケーションを図るため、第72期中間報告書で「株主アンケート」を実施しました。お忙しいところご回答いただき、誠にありがとうございました。その結果の一部をご紹介します。

当社に関する情報でよくご覧になるのは何ですか。(複数回答可)



株主の皆様からいただいたお声

- これからもっと御社のことを知りたいと考えています。中間報告書で「HIOKI 祭り」を知り、是非訪れてみたいと思います。地元の企業なので応援していきます。
- 第72期中間報告書は役に立ちました。
- 「魔改造の夜」を見ました。残念ながらチャレンジは失敗でしたが、保有株の会社の裏側が見られた気がして嬉しかったです。よりファンになりました。

アンケートを通じて株主の皆様から多くの励ましのお言葉をいただきました。心からお礼申し上げます。今回、当社に関する情報についてどのような媒体から得ているかお聞きしました。結果として現在の株主の皆様が株主通信(事業報告書)や株主総会招集通知、決算短信をよくご覧になっていることが分かりました。今後、これらの資料の中で当社の事業内容や経営戦略を分かりやすくお伝えできるように、改善してまいります。このたびいただきました貴重なご意見・ご要望を今後の活動に活かし、企業価値の向上に努めてまいります。引き続き、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式の状況

Stock Information

株式の状況

発行可能株式総数	40,514,000株
発行済株式の総数	14,024,365株
株主数	8,709名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,267	9.28
日置電機社員持株会	833	6.10
日置恒明	800	5.86
日置勇二	719	5.27
株式会社八十二銀行	666	4.88
日置妙子	573	4.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	560	4.11
明治安田生命保険相互会社	510	3.74
日置秀雄	352	2.58
公益財団法人HIOKI奨学・緑化基金	301	2.20

- (注) 1. 当社は自己株式を367千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

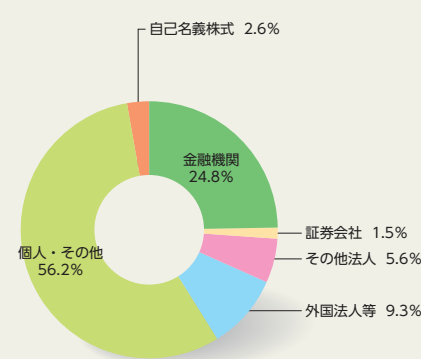
株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年2月
期末配当金受領 株主確定日	毎年12月31日 (中間配当金を支払う場合は、毎年6月30日)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
お問い合わせ先	〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告により当社ホームページ (https://www.hioki.co.jp/jp/ir/) に掲載いたします。ただし、事故 その他やむを得ない事由により電子公告をすることが できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場市場	東京証券取引所プライム市場 (証券コード 6866)

株価推移



所有者別株式数分布



所有株数別株主分布

